

## 39. 帯圧についての一考察

昭和女子大 大竹 この

佐成 郁子

1. 帯は和服の非活動性の最大原因であり、被服衛生学上特に問題視されている帯圧については、その解決策としていく多の改良帯が考案され実用に供されて成果を挙げつつあるが、帯圧の大小は帯の種類のほか材料、結び方などにも左右されると思われたので、平常用帯を対象として、帯の種類、材料、結び方別に帯圧を測定し比較検討してみた。

2. 帯圧測定には標準水銀血圧計を使用し、そのゴム袋を着物と帯の間に挿入し、水銀柱の動きを読んで単位面積当りの単位重量に換算した。測定部位は立位、普通及び深吸気時の前・背部正中線、右中失腋窩線上の上・下縁計6カ所で、種類は名古屋帯、半幅帯、付帯の3種。試料は木綿及び数種の合繊芯を用いた。また結び目の実験では、しばった場合、ねじった場合、止め金使用の場合に分けて名古屋帯で、胴回りの付紐を上部に付けた場合と下部に付けた場合の2種を付帯で行ない、結び方では名古屋帯は太鼓結びとふくら雀の変形、半幅帯では貝の口結びと文庫結びについて帯圧を測定した。

3. 種類では、付帯は名古屋帯、半幅帯の何れより帯圧が小さく、結び目では、しばった場合が他の2方法より帯圧が大となる。材料では木綿芯は概して合繊芯より帯圧が大きい。